Rotary OSAKA KAMIGATA R.C
国際ロータリー第 2660 地区　大阪上方ロータリークラブ

CLUB WEEKLY No.0040

よいことのために手を取りあおう

国際ロータリー会長　フランチェスコ・アレッツォ

職　業　奉　仕　月　間

例会日：2026年1月19日（令和８年1月19日）

会長　平松悦子

今日の例会

2026年1月19日
18：30～

■第7回理事会　17：30～18：20
■ 今日の歌　君が代・それでこそロータリー
■ 出席報告　安田会員
■ ニコニコ発表　安田会員
■ 溝畑洋子会員　入会式
■ 新年会

次回の例会

2026年1月26日
12：30～　オンライン

■ 今日の歌　我らの生業
■ 出席報告　青戸会員
■ ニコニコ発表
■ 卓話　遠藤会員

会長の時間

【間嶋　伸治】

先週は濱部さんのお店でクリスマス家族会をさせていただきまして、非常に楽しい時間で、だいぶ日本酒を飲み過ぎたかなと、多分５種類ぐらいは飲んだと思うんですけどね。料理も美味しくて大変良かったです。ありがとうございます。皆さんお疲れ様でございます。

もう今日は最後の例会でございまして、あと１週間ほどで新年を迎えますが、来年は馬年ございますね。飛躍の年でございますので、どうぞ皆さん年末年始はご自愛くださいましてどうぞ乗り越えてください。

幹事報告

【幹事　久保　太公矢】

＊1月24日（土）に大阪YMCA国際会館で開催されます「地区ロータリ財団補助金管理セミナー」にご出席の平松会長、和田ロータリ財団委員長、竹谷社会奉仕委員長には宜しくお願いで致します。
＊本日配布しております名簿の記載項目の校正をお願いいたします。
ご記入後は事務局までご提出をお願いいたします。
＊次回第41回例会は1月26日（月）ZOOMによるオンライン例会です。

大阪上方ロータリークラブ　創 立:2024 年 7月22日　例会:第1･3 週目は対面･第 4週目はオンライン

会長 ：平松 悦子
幹事 ：久保 太公矢
会報資料担当 ：青戸 佳世

【例会場】〒543-0001 大阪市天王寺区上本町 6-1-55 シェラトン都ホテル大阪
TEL:06-6773-1111　FAX:06-6773-3322
【事務局】〒579-8058 東大阪神田町 3-12　医療法人翔聖会 気付
TEL:080-2026-1803　Mail:osaka.kamigata.r.c@kind.ocn.ne.jp

委員会報告

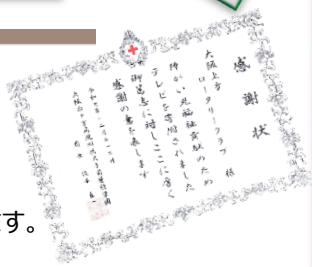
【社会奉仕委員長　竹谷美和】

22 日の月曜日なんですが、午前中7 時 45 分に、大正北小学校（かもめ会朝ごはん食堂）に子供食堂の配膳のお手伝い、午後12 時半から、大手前整肢学園に集合で、クリスマスのテレビの贈呈式と2 件活動があります。その日は朝からと昼からと2件ございますのでよろしくお願いします。

【職業奉仕委員長　小林　友美子】

職業方針よりお願いとお知らせをさせていただきます。食堂へのお米の支援とと合同企画で子供食堂さんへのお手伝いをしたいなと思っております。今日受付の方でご覧いただいたと思うのですが、かもめ食堂さんが12月22日で、夢うららほっとステーションさんが、夕方17時から18時なんですが、お手伝いに皆さん行っていただければと思っております。ご都合良いお日選んでいただければなと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

前回ニコニコ箱報告


感謝状

溝畑　正信様	上半期、今日が最後です。 新年下半期も宜しくお願い致します。 昨年度の会長の時間をまとめました。
間嶋　伸治様	今年、最後の例会宜しくお願い致します。
久保 太公矢様	いつもありがとうございます。
遠藤　孝二様	いつもありがとうございます。
中嶋　勇人様	寒いですね。
竹谷　美和様	寒さに負けないで！
安田　剛様	今年もあとわずか、 来年も宜しくお願い致します。
宮岸　隆様	今年1年、大変お世話になりました。 ありがとうございます。
和田悠希子様	来年も宜しくお願い致します。
道木　良明様 道木　憲子様	今年も楽しく過ごせました。 ありがとうございました。

皆様、ありがとうございました。合計11名　20,000円

整肢学園にテレビ贈呈

卓　話　No.2

【濱部　英和会員】

前回は濱部の幼少期から中学時代の周りに居た「親がいない子ども、育てられない環境の子ども、その他の理由で家庭で暮らすことの出来ない子ども達を数多く見て育った環境や、15歳で実家を追い出され、各地を転々として枚方市に移り住み中学を卒業したばかりの彼女と同棲生活が始まった事までお話をいたしました。

今回はその続きをお話ししたいと思います。

枚方に移り住み彼女との同棲生活が始まり、仕事の面倒を見てくれていた太田さんが仕事を辞めることになり、無職になった後は本当に辛い思いをしました。やはり学歴と年齢の壁で仕事がなかなか見つからず、お金が無くて何度も電気が止まったりしていました。それでも一生懸命に彼女と二人で生きていました。暮らしていたというより「生きていた」という表現が正しいと思います。毎日その日を生きるのに必死でした。

中学時代の友達に連絡すれば少額のお金を借りられたのでしょうがそれも致しませんでした。理由は明白で友達に連絡すれば、親に居場所が分かってしまうからでした。家を追い出された事に恨みなどの感情はありませんでしたが、どうしても一人で生きて行きたかったのです。親の跡も継がず勝手な事をしたのは自分ですので、自分がどこまでできるのか試してみたいという思いの方が強くありました。

それに彼女がすごく強かったのが救いです。泣き言など一切聞いたことがありませんでした。今の濱部があるのは彼女のおかげだと思います。あの頃は本当に貧しかったですが、豊かでありました。

そして彼女との同棲生活が始まり、その1年後には施設に残っていた彼女の弟も迎え入れることになります。弟も進学すれば高校生活の3年間は施設で生活ができたのですが、進学せず仕事を選びました。私は彼よりも2年も早くに仕事をやりだし、苦労するのは一番分かっていたのですが、その選択に何も言うことが出来ませんでした。

濱部17歳の時に、中卒の3人での新しい暮らしがスタートです。お金は無く裕福ではありませんでしたが、３人での生活は毎日が本当に楽しく過ごしました。彼女と２人だけの1年間も楽しかったのですが、弟を迎えてからの生活はその何倍も楽しく過ごせました。狭い部屋に布団を並べて合宿みたいな生活です。実家を出てから地元の高槻には一度も帰っておりませんでしたので、近況を聞くのも新鮮で楽しかったです。

いつでしたか、中古のテレビをやっと手に入れることができたその日、室内アンテナで写りも悪かったのですが3人で夢中になって画面を見つめたのを今でも鮮明に覚えています。家の中に初めて音が流れた時です。昔の室内アンテナは本当に写りが悪く、テレビを叩いたりアンテナの角度を変えたりする必要があり現在のデジタル放送では考えられません。

15歳で実家を追い出されてから20歳になるまでの間、働くことの意味、人との繋がりの尊さ、そして人への思いやりを深く学びました。その期間は、私の人生で最も辛い経験でありながら、人間として最も大きく成長した時期でもあります。若いという理由だけで世間から信用を得られず、弱者として扱われることも多々ありましたが、彼女が施設で過ごした日々と比べれば、私の境遇はまだ幸せだったと言えるでしょう。

彼女との出会いは、私の人生に計り知れない影響を与えました。彼女の存在が私の性格をも変え、より強く、より優しい人間へと成長させてくれたのです。彼女に出会えたこと、それこそが私にとって最大の救いであり、人生の大きな転機となりました。その後何度か転職しながら、今現在も付き合いのある素晴らしい人達に出会う事になります。彼らは私にさらなる成長のきっかけを与え、物事を異なる視点で見る力や、新しい価値観を教えてくれました。そのおかげで、人生の選択肢が大きく広がり、今もなお生かされています。今でも教訓にしているのが「楽観も悲観もしないように生きる」です。また「どんな辛い時でも、後ろ向きには倒れず、倒れるなら前向きに倒れろ」と教えてもらいました。自分の行動に不安になっても逃げたりせず、挑戦しろという意味で教えてくれたのだと思います。人より早く社会に出て、数々のことを多く学びましたので、濱部は本当に強く育ちました。そして彼女とは17年もの長い時間を一緒に過ごしましたが、別れることになります。自分には無かった幸せな家庭を築くのが夢であった彼女に、答えてあげられなかった私が原因だと思います。

別れた後も彼女からは良く連絡がありました。声の調子で何かあるのは分かりましたが、彼女はいつも何も言いませんでした。くだらない話を１時間もすれば、少しは楽になるのかいつも勝手に電話を切るのです。良き友です。

今でも教訓にしているのが「楽観も悲観もしないように生きる」です。また「どんな辛い時でも、後ろ向きには倒れず、倒れるなら前向きに倒れろ」と教えてもらいました。自分の行動に不安になっても逃げたりせず、挑戦しろという意味で教えてくれたのだと思います。人より早く社会に出て、数々のことを多く学びましたので、濱部は本当に強く育ちました。

そして彼女とは17年もの長い時間を一緒に過ごしましたが、別れることになります。自分には無かった幸せな家庭を築くのが夢であった彼女に、答えてあげられなかった私が原因だと思います。別れた後も彼女からは良く連絡がありました。声の調子で何かあるのは分かりましたが、彼女はいつも何も言いませんでした。くだらない話を１時間もすれば、少しは楽になるのかいつも勝手に電話を切るのです。良き友です。

人生って、タイミングが大切だなと思うことがあります。その後私も33歳の時に現在の妻である人と出会い結婚しました。

妻は14歳年下で結婚した時はまだ19歳でした。翌年に長男が生まれ3年後には長女も誕生します。妻には常々、実家に帰り両親に孫の顔を見せるよう言われていましたが、15歳の時に家を追い出されてから25年間一度も連絡を取って無かったので、言われるのも当然なのですが、今更親に会うのもどうなのかと思っていました。その後も実家に帰る事をせずに過ごしておりましたが妻が３人目を妊娠したのをきっかけに家族で実家に行くことになります。何の連絡も入れず突然です。

子供に「おじいちゃん、おばあちゃんは居ているの？」と聞かれたことがきっかけです。子供からの一言が無ければ、子供も産まれ親としての気持ちもわかっておりましたが、多分一生実家に連絡する事も無かったと思います。 25年ぶりに帰る高槻は本当に変わっていました。生まれて15年過ごした場所ですが、再開発が進み山が無くなり、よく釣りをしていた池も埋め立てられ、新しい道ができ、マンションや住宅が建ち並んでいます。実家周辺は昔の面影もなく、恥ずかしながら自分の実家に帰るのに少し道に迷ってしまったほどです。それほど様変わりをしていました。緊張しながらも実家のチャイムを鳴らし出てきた両親を見た時には、体も二回りくらい小さくなっており昔の元気な時の面影はありませんでした。最後に父親を見たのが50歳、その父も75歳になっていたので当然と思えます。父親は私の顔を見て生きていたのかと泣いていましたが、母親は平気な顔をしていました。昔から母親は本当に強い人です。一度実家に帰ってしまうと妻は孫を見せに良く実家に行っておりました。父親の体調が良くないはずだと言うのも妻から聞かされて気づいたほどです。私はやはり実家の敷居は高く、妻と子供と一緒に実家に帰ることはなかったのですがたまに帰った時に母親に父親の事を聞いても「大丈夫」と言うだけで何も教えてくれませんでした。

その時、父親はガンで余命宣告をされていたようなのですが、父親が入退院を繰り返すまで誰も私には教えてくれませんでした。25年間も連絡もせず勝手気ままに生きていたので仕方がないと思います。父が入退院を繰り返すようになると、私も頻繁に実家へ帰るようになります。病院のベッドの上で弱りゆく父を見て悩み、妻に相談しました。生まれてから15年間しか一緒に生活しておらず、一度も親孝行をしたことがないので、生きている間にどうかやらせてほしいとお願いしました。

私も自分の子供ができ、親が子供に対する気持ちも痛いほど分かっておりました。妻は３人目の子供を妊娠中でお腹も大きくなっているのにも関わらず、「やりたい事をやりなさい。１、２年くらい家の事は私が何とかやりくりするから」と言ってくれたのです。最後は父親の面倒を自分で看たいという思いから、41歳の時に仕事を辞め、学校へ通ってヘルパーの資格を取得しだします。またもや無職です。今回は妻と3人の子供もいており、無職になり学校に通い出すことに少々の勇気が必要でした。

周りの友人からも仕事を辞めてまでヘルパーになるなど大反対をされましたが、そのような忠告を無視し突き進みはじめます。ヘルパーの学校を卒業後、知人の知り合いが八尾市で老人ホームを運営しておりましたので社長さん合わせて頂き、

父親のために将来は自分で父親の面倒を観て入居できる施設を経営したいので、給料は要らないから全てを一から教えてほしいとお願いしました。きっと給与をもらい働くと、ヘルパーとしての仕事は教えて貰えるが、裏方の事務などの仕事の全ては教えて貰えないのではないかと思ったからです。

社長さんには私の生い立ちや事情を全て話しておりましたので、無事にその施設で無給で務め始めることになりました。

日勤や夜勤、休みの日には会社に行って事務仕事をさせてもらい、月に２・３日ほどの休みで働いておりました。

その頃は住まいも妻の実家の近く、京都の京田辺に住んでおり、毎日京都から八尾へ通い、仕事が終わると父親が入院している高槻の病院へ行き、その後家に帰るという生活を送っていました。入院中の父は、状態が良いときには会話もできましたが、傾眠傾向にあり眠っていることの方が多くありました。そんな時はベッドの横で座っているだけです。

病院に行くと病棟の看護師さんに、父のおむつ交換も自分でやりたいとお願いし、面会中はいつも自分で行なっておりました。当たり前なのですが最初はおむつ交換もやらせてくれませんでしたが、毎日のように消灯時間近くにならないと面会に来られない私を見て、看護師さんたちは内緒でやらせてくれるようになりました。

仕事もたまに残業になることもあります。その時は面会時間に間に合わないので、病院に寄らず家に帰ります。その日も残業で、病院に寄らずまっすぐに家に帰る途中で母親から電話がかかってきました。父親の容態が急変したので、今すぐ病院に来るようにとのことです。もう京都自宅付近でしたので、家族を乗せ急いで病院に向かいましたが、結局間に合いませんでした。毎日のように病院に通っていたのに、たまたまの残業で最後の瞬間に立ち会えなかったことが本当に悔やまれました。

父が他界したことで８ヶ月間無給で修行をした施設に居続ける理由も無くなり、翌月に退職することになります。

父の死後２ヶ月後には会社を設立し、その３ヶ月後には1ヶ所目の施設をオープンさせることになります。最初の施設はリフォームにかけるお金を節約するため、私も泊まり込みで工事を行いました。工事関係の友人も多くいたため、材料費のみで工事を請け負ってくれ、無事に完成させることができたのです。その後会社設立から5年で３ヶ所の施設をオープンさせ、その間に訪問看護の医療分野も開設しました。

八尾市で施設を運営していると、貧しい世帯が多く、生活保護で生活する方も多いと気づきます。施設で夏祭りなどのイベントを開催する際には、特別に一般の方にも解放もしており、多くの子供たちが参加します。子供たちに話を聞くと、母子家庭など片親の家庭が多く、私自身の子供時代の経験「親がいない子ども、育てられない環境の子ども、その他の理由で家庭で暮らすことの出来ない子ども。恵まれない子ども」達を数多く見てきたのを思い出しました。

普段、施設には子供など、一般の方々は出入りできません。そのため週に一度でも、恵まれない子供達への援助をしたいという思いから、会社から切り離して個人で子ども食堂を開業しようと思い立ちました。法人から切り離すことで、介護施設を運営していることから、地域の囲い込みと思われるのを防ぎ、また利益追求できない事業に会社として投資するのを避ける意味もありました。

八尾市役所へは普段から週に何度も行っていますので、相談してもスムーズに事が運びますし、子ども食堂開業も後押ししてもらえます。高齢となり体力的にも施設で働くことも出来なくなった職員さんの新しい働き先にもなります。施設の近くで空き家を見つけ、地域の自治体にも話をつけ協力関係を築きましたが、開業する前に全て断念することになります。2020年のコロナです。全てが無になりました。介護業界も特に厳しい状況にあり、職員にも外食はおろか、できる限りの他者への接触も控えさせておりました。入居者様はデイサービスにも行けなくなりADLの低下がみられ、家族との面会も遮断され２～３年は本当に寂しい思いをしていたと思います。そんなコロナの状況も終わりを迎え、もう一度子ども食堂を開業させようとしていました。

前回借りようとしていた場所は空いておりませんでしたので、一から探すところから始めます。そんな時、2012年よりお世話になっている溝畑直前会長より、ロータリークラブ入会のお話をいただきました。恥ずかしながらその時までRCの詳細な活動も何も知らず、会長のクリニックへ伺い話を聞く事になります。私も介護施設を開業してからボランティア活動を長年やっており、子ども食堂を開業しようとし、断念した経緯もお話ししました。

溝畑直前会長のRCでの数々の活動を聞き感動致しました。その話の中で、RCで子ども食堂の支援をしてみてはどうかと言われた時には、個人で奉仕するよりもっと大きな活動ができると思い、大阪上方RCへの入会に至りました。

動機は単純です。子供への奉仕しかありません。私は子供の時より、数奇な人生を歩んできました。その苦労のおかげで人よりも強く生きていけることができております。人に優しく接する大切さや、それで救われる人もいる事を学びました。両親には本当に感謝をしております。今は進んで人への恩返しや、恵まれない子供達への援助、手助けなどもできるようになっています。私自身も、障がいを抱える友人や、施設で育った子どもたち、家庭環境が厳しい子どもたちと接する中で、彼らが抱える問題や困難を目の当たりにしてきました。まずは子ども食堂を通じて、そうした子どもたちに少しでも温かい支援を提供し、彼らの未来を明るくする手助けができればと考えています。また、子ども食堂は地域社会とのつながりを深める場でもあります。地域の人々やRCが協力して運営することで、子どもたちに対する支援の輪が広がり、地域全体が一体となって子どもたちを育てる環境が整います。地域社会とのつながりを強化する重要な役割を果たしているのです。

前年は、RCで社会奉仕担当をさせて頂きました。大手前整肢学園への訪問や、子ども食堂の支援活動開始のお手伝いもさせて頂き、楽しく活動させていただきました。本当に感謝しております。

最後に社会的地位がある皆様にお願いがあります。今なお苦しんで大人の手助けを必要としている子供達は本当に多く居ております。どうか知恵を出し合い、人脈やコネを使い、少しでも多くの子供達を笑顔にしてあげてください。

この比較的裕福な天王寺区でも児童養護施設は複数個所あり今もなお虐待やいじめが多発しております。外部からの関りや支援が入ることで、子供たちに少しは笑顔になって貰えることができます。外部の目のおかげで、虐待防止のきっかけになるかもしれません。

どうか子供達への関わりや奉仕の手を止めず、やり続けていただく事を切に願っております。